

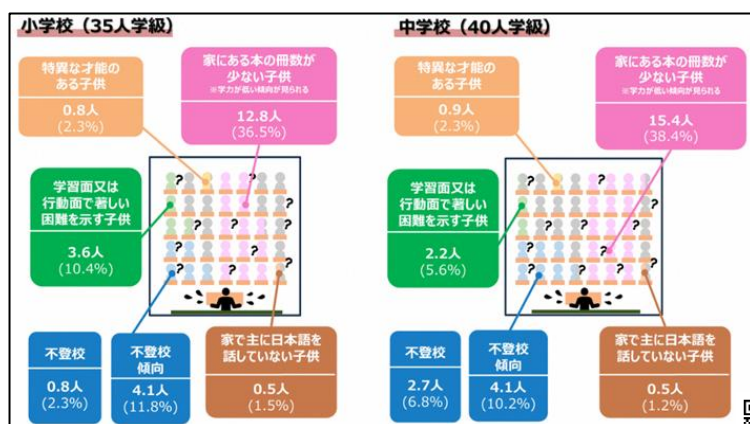


複数の教職員で支え合う学級づくり

現在、小学校、中学校において右図のような現状がみられ、多様な個性や特性を有する子どもが在籍している実態が顕在化しており、学習面、生活面のニーズも多岐にわたっています。

また、家庭環境や価値観の違いを背景に、保護者の学校に対する期待や要望も多様化している現状があります。こうした状況の中で、

学級づくりを学級担任が一人で行うことには限界が生じつつあり、複数の教職員がそれぞれの専門性を生かして協力しながら、児童生徒を支える学級づくりがますます必要になってきています。



文部科学省 教育課程企画 特別部会資料（令和7年3月）



1 複数の教職員が支え合う取組の例

- ・ 単元により教科担任を交代する。
- ・ 他学年の先生が出張授業を行う。
- ・ T Tで授業を行う。
- ・ 学年主任、教務主任、教頭等が道德の授業を行う。
- ・ 小学校の高学年に教務主任や教頭を副担任に配置する。

多くの教職員が様々な場面で子どもと関わることが、学級づくりにおける子どもの多面的な理解と、より適切な支援につながります。

2 複数担任制の導入の例

- ・ 1学級1担任ではなく、複数の教職員で複数学級を担当する。
- ・ 1週間や1か月など一定期間で担任が交代する。
- ・ 学校種、学校の規模等により、複数担任制を導入する学年や交代頻度等を考慮し、学校の実態に応じて柔軟に学校独自のシステムに変更する。

複数の教職員が支え合うことによって、教職員の指導力の個人差・限界を補い、集団・組織としての指導力の向上を促すことにもつながります。

【参考資料】

- ・ 知ってみよう！
「チーム担任制」Q&A
(群馬県教育委員会)



- ・ 学校の課題を克服する
「チーム担任制」について
(大分県教育委員会)



各学校のリソースを生かし、複数の職員で子どもたちを育成する体制のさらなる強化に取り組めるよう、市教育委員会として好事例[※]や関連情報の発信に努めています。

※ 校支援のライブラリ（教育センター>好事例集）に、市内の学校の好事例が載っています。

（担当 学校教育課 指導主事 丸山）

分断ではなく「つなげる」

～ 幼保小の架け橋期における、「子ども観」のアップデート ～

子どもが教えてくれたこと

幼稚園参観での二つのエピソード。

廊下を歩いていると、当時年少児だった晴さん(仮名)がヘビと魚を持って歩いてきました。写真のように床に置いて、ヘビと魚をつかったことや名前について教えてくれました。すると晴さんは「ほら、ヘビは大きいんだよ!」と言い出し、写真のような置き方から右端の廊下の線(写真太丸印)にヘビと魚のしっぽをぴったり合わせて見せてくれました。



小学1年生の算数「ながさくらべ」では、端をそろえて長さを比べます。そんなことを私が話したわけでもなく、晴さんは実に自然に長さが比較できるように置いたのです。

園庭では泥水に手を突っ込んでいる男児二人がいました。「あったかいね」「温泉だ」と話しています。そこに先生が来て一緒に泥水に手を入れました。「ほんとだ。何で温かいんだろうね」と男児に問いかけました。

大人は「日光に照らされ続けた結果、水温が上がった」と頭(知識)で考えがちです。しかし子どもたちは、頭で考えるよりも前に、身体全体を使って身の回りの事象を捉え、たくさんの「!」や「?」を生み出しています。こうした子どもの内から湧き出た「!」や「?」を取り上げ、共に追究していくことこそが、主体的な学びの第一歩につながると考えます。

まだ採用されて間もない頃、1年生を担当した時には、「1年生だからできないだろうな」とか「ちゃんとさせなくては(椅子に45分座らせて授業をすること)」と思い込み、指導をしていたことがありました。今思うと、いかに子どもの可能性を潰していたのかと痛感します。幼児期で培ってきたことを考えず、0ベースで子どもを見ていたのです。教えないとできないからと、一方的に教え込む授業をたくさんしてしまったと反省します。豊かな幼児期を経て子どもが培ってきたことを見取り、それを信じて日々の実践につなげていくことが、架け橋期の学びにおいて大切なことだと思います。もし可能であれば、短時間でも近くの幼稚園や保育園・認定こども園の子どもの様子を見に行くことをお勧めします。想像している以上に、子どもは幼児期に様々な経験をして小学校に入学してきます。「教えないとできない、分からないだろう」「話合いなんてまだ厳しいかな」など先入観にとらわれず、子どもの可能性や力を引き出すために教師として何が出来るのかと考え、実践していくこと、自分の「観」を見つめ直し、目の前の子どもの事実から出発すること。このようなことを子どもから教えてもらいました。

(担当 学校教育課 指導主事 平井)

「子ども未来サポート CoCoMo」を利用してみませんか

～ CoCoMo は家庭と学校以外のもうひとつの新しい居場所です ～

不登校児童生徒教育支援室 子ども未来サポート CoCoMo では、「教育機会の確保」「社会的自立を目指した支援」を意識して通室生の支援を進めています。

<CoCoMo のご紹介>

- ・ 平日 9:15～15:30 に開室
- ・ 通室日数や在室時間は、本人及び保護者の希望で設定（ほぼ毎日、週 1～2 日ペース、気持ちが向いた日に通室など、各自で決めます。）
- ・ 午前や午後だけ、お弁当持ちで 1 日、出席簿に○をつけて帰宅するのも OK
- ・ 学習場面では指導員による授業形式ではなく自主学習のスタイル

（個別の支援は子どもから求めがあった時のみ行い、自分がやりたい内容を、自分のペースでゆったりと机に向かうことができるようにしています。ひとりで静かに過ごしたい子、自己表現が苦手な子、指名やグループ学習での発言を負担に感じる子どもたちへの配慮です。）

“通室生の明るい未来を応援する”
という願いを込めた
「子ども未来サポート」
“ここもあなたの居場所だよ♪”
というメッセージを込めた
「CoCoMo（ここも）」
「子ども未来サポート CoCoMo」の
名称にはこのような思いが詰まっ
ているのです。

<CoCoMo には楽しく過ごす時間もたくさん>

- ・ 勉強の後に一人で読書やパズル、スクラッチアートなどに熱中する子ども
- ・ 指導員との卓球やウノでの対戦に挑む子ども

来室回数が増えてくると通室生同士の気の合うメンバーで、カードゲームやボードゲーム、ジェンガで盛り上がることも増えてきます。学校も学年も異なる仲間と楽しみながら会話し、大いに笑い、コミュニケーション力を高めています。

<子ども未来サポート CoCoMo は次の 3 か所に開設>

- **CoCoMo たかだ** : 上越市仲町 4-2-2 3 （ダイアパレス高田駅前 2F） TEL 025-522-2428
- **CoCoMo なおえつ** : 上越市中央 1-3-1 8 （直江津学びの交流館 1F） TEL 025-545-0780
- **CoCoMo すわ** : 上越市上真砂 2040 番地（諏訪中学校 2F） TEL 080-4867-4699

今年度開設「CoCoMo すわ」のご紹介

CoCoMo すわは、部屋は 1 室のみですが、机のレイアウトを工夫したり、パーテーションを置いたりして、落ち着いて過ごせるようにしています。もちろん、仲間と関わりながら過ごすスペースもあります。通室時の過ごし方は、自主学習が基本となりますが、2 名の指導員（小松、瀧澤）に質問等をしながら学習を進めることもできます。

他の 2 か所の CoCoMo と大きく異なるのは、諏訪中学校（学びの多様化学校）内にあるということです。お子さんや保護者のご希望により諏訪中学校の学習を見学したり、活動を体験したりすることができます。また、体育館や校庭もありますので気分転換等に利用することができます。興味のある方はぜひ見学においでください。お電話をお待ちしています。



（担当 CoCoMo 指導員 田中 遠藤 瀧澤）

上越市学校教育実践上の重点の理解と 効果的な活用について

上越市では、「第3次総合教育プラン（令和5～12年度）」に基づいて、学校教育に関する様々な施策を実施しています。また、教育委員会では「市学校教育実践上の重点」を毎年度提示し、各学校に具体的な取組をお願いしています。

この「総合教育プラン」と「実践上の重点」の関係性は、会社経営における「中・長期経営計画」と「単年度の営業方針」の関係性によく似ています。しかし、後者の「実践上の重点」について、これまで各学校や教職員の皆様にはどのように受け止められていたのでしょうか。この目的や内容が十分に浸透していなければ、決して望ましい「成果」は得られないのではないかと推測します。もちろんそれは受け止める側だけの問題ではなく、発信する側にも大きな責任があると感じています。

そこで、令和8年度の「実践上の重点」の作成にあたっては、「今年度の具体的な行動指針」として、各学校に「分かりやすく受け止めてもらえるもの」「読んで終わりではなく、随時活用してもらえるもの」を念頭に置きました。

具体的には、各施策を網羅的に示してきた従来の形式を取りやめ、内容を「焦点化」しています。また、紙ベースではなくPDFデータでの活用を前提とし、キーワードにリンクを埋め込み、必要に応じて関連資料を参照しやすくしました。この資料は、各校の職員研修等でそのままご活用いただくことも想定しています。

4月の研究主任研修では、重点1に関する「手がかり8（エイト）」のひとつ、「自己選択・自己決定」について具体的な手立てをお話ししました。今年度も校内研修等で授業公開や協議会を実施する学校が多いと思いますが、事前に「重点に迫る具体的な手立て」を校内で十分に共有していただくようお願いします。そして、その手立てが本時の授業だけでなく、日常的な指導にどう生かせるのかを、授業研究の中で協議していただきたいと思います。これは、授業公開を行う授業者だけでなく、全職員で共通実践するための大切な視点です。

こうした学校の実践をサポートする「重点アプローチ支援訪問」も、ぜひご活用ください。授業の参観に限らず、手立てに関する事前の校内研修や指導案作成も支援させていただきます。

（担当 学校教育課 指導主事 鴨井）

教育センター図書の出借について

教育センターでは、カウンセリングや不登校、特別支援教育など、子どもの支援に役立つ図書の貸出を行っています。貸出方法については、直接教育センターへお越しいただくか、電話またはメールでお問い合わせください。（Tel545-9247 E-mail: jecenter@jorne.or.jp）



【学校教育関係】教師が悩んだときに読む本 諸富 祥彦

【不登校関係】学校に行けない子どもに伝わる声かけ 今野 陽悦

【カウンセリング関係】

ステップアップカウンセリングスキル集：今さら聞けない12の基礎技法

浜内 彩乃

他にも様々な書籍があります。